

鳥取県は、県内企業のテレワーク試行の場として
託児機能付きサテライトオフィスの設置・運営や、
在宅勤務規定の整備に係る専門家派遣などの支援を

行い、企業の多様で柔軟な働き方の導入を後押しし
てきた。働きやすい職場環境の整備に努める県内企
業の事例を紹介する。

在宅勤務で子育てとの両立へ フレックスタイム合わせ導入

介護にも適用、安心して働ける環境づくり

エクス・プラン (米子市)



在宅勤務制度の本格運用開始を前に、総務担当の社員と制度内容を確認する
宮本秀成社長 (左) =米子市米原7丁目、エクス・プラン

建 築設備設計事務所の(株)エクス・プラン(米子市米原7丁目)は3月16日、在宅勤務制度の運用を本格的に始める。宮本秀成社長が「家庭の事情を理由に、優秀な社

員に辞めてもらいたくない」との思いを込めて導入を決めた。直接のきっかけは、勤続10年目で東京事務所(東京都中央区)に勤務する女性社員

千葉県木更津市在住の千原(仮名)は、何とか仕事と子育てを両立できる環境をつくれないうか、と考えたことだった。この女性社員は、空間をより魅力的に見せる照明デザインを顧客に提案する照明デザイナー。業務スキルが高く、社内外からの信頼も厚い。しかし子育ての問題に直面した。今春、小学校に入学する長女(6)が利用する予定の学童保育は午後6時まで。終業時刻とちょうど同じだが、通勤に1時間以上かかるため、迎えが間に合わない。女性社員は「このままでは就労継続が難しい」と考え始めていた。解決のため、会社側から提案したのが在宅勤務だった。エクス・プランは導入に向け、2018年9月から準備。12月末までに鳥取県から3回、社会保険労務士の派遣を受け、在宅勤務規定を策定した。対象者は勤続6年以上

で、「小学1〜3年の子どもと同居して養育している社員」または「要介護度3以上の家族と同居して介護している社員」などと定めた。合わせてフレックスタイム制(日々の始業と終業の時間を自由に決められる制度)の導入も決め、社員とも協議しながら制度化した。これで東京事務所勤務の女性社員も安堵。在宅勤務を活用しながら、引き続き仕事に打ち込むことに決めた。次女(3)が小学4年になるまで在宅勤務をするつもりで、「子どもの成長にとって重要な期間に、そばにいたいことができている。在宅勤務は別の女性社員も活用する予定だ。在宅勤務者には月2回の出社を義務付け、現場との溝が生じないようにする。日々の出退勤管理にはクラウド型勤怠管理システムを使用する。同社は社員47人のうち女性が28人を占めている。在宅勤務の対象は男女問わないが、子育てや介護の問題が付きまといがちな女性にとっては特に、ありがたい制度になりそうだ。宮本社長は「貴重な戦力である社員を手放さないため、時間と場所にとらわれない在宅勤務の運用を積極的に進めていきたい」と話している。

鳥取県内企業の事例を紹介 多様で柔軟な働き方進める

ネット電話活用し、移住先の 沖縄からパソコンなど指導

故郷で子育てしながら1日7時間労働こなす

スイコー (倉吉市)



スカイプ越しに、受講者にスマートフォンの使い方を指導する山崎しのぶさん(右) =倉吉市伊木、スイコー「ゆっくりやさしくパソコン教室」倉吉教室

事 務用品販売やパソコン教室事業を手掛けるスイコー(株)(倉吉市山根、増田純吾社長)。同社の「ゆっくりやさしくパソコン教室」倉吉教室(同市伊木)で、在宅

勤務社員の山崎しのぶさんがインターネット電話「スカイプ」越しに、受講生にスマートフォン(音声検索はこのボタンを押せばできますよ)のボタ

さんがいるのは沖縄県南城市だ。南城市出身の山崎さんは大学卒業後に沖縄県内の市役所などに勤務し、縁あって2011年に鳥取県湯梨浜町に移住。倉吉市内の職業訓練校を経て14年、スイコーに正社員として入社し、主にパソコン教室の講師を務めた。入社後に鳥取県内の男性と結婚して妊娠。夫の転勤をきっかけに夫婦で南城市に移ることを検討し、仕事を辞めようかと考えた。そこに会社側から在宅勤務の提案があり、快諾して17年2月に同市に移住した。以来、スカイプを通じたパソコン講師のほか、教室のテキスト作成などもこなし、1日7時間の短時間勤務で働く。山崎さんは「子どもが小さいので在宅勤務は助かる。通信機器で同僚とやりとりすることに慣れた」と話す。

山崎さんが沖縄に移るタイミングで導入した在宅勤務制度は現在、本社で事務を担う山下桂子さんも土曜日勤務当番の際に活用し、北栄町内の自宅で仕事をこなす。増田純吾社長は「働き方を柔軟にすることで、優秀な社員に会社に残ってほしい」と導入の狙いを説明する。業務効率化にも力を注ぐ。外出中でもメール確認や製品の見積書作成ができるよう、12年から外勤社員にiPadを配布。18年1月には文字入力しやすいノートパソコンに切り替えた。効果は大きく、残業時間削減につながっている。

18年7月には倉吉市内初の coworkingスペース「SUIKO WORK CAMP」を開設した。カフェのようなおしゃれな空間で、自社の社員だけでなく、さまざまな業種、雇用形態の個人・団体が利用している。魅力的な職場づくりの根底にあるのは「社員とお客様の喜びの源となる」という企業理念だ。増田社長は「職場環境を整えながら、県外在住の大学生や社会人を対象にした採用活動にも力を入れた」と今後の方針を語った。